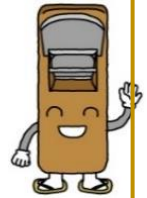


学校問題サポートチームから

これまでの学校訪問や経験から、これはつかえる、やってみたい、いやされる、これやこれっ、などの言葉などを集めてみました。がんばれ学校！

- 前例にとらわれていては何も生まれない。発想の転換と前例を疑うことから始めるべき。
- 教師同士の関わる力は、子ども同士の関わる力となる。
- 今が本番、今日が本番、今年こそが本番、明日がある、明後日があると思っている間は、なんにもありはしない。
- 目の前の見える相手だけではない、隠れた支援者、賛同者にも目を向けるべし。
- コミュニケーションがとれている職員室の雰囲気、イコール、クラスのまとまり。職員一人一人のプラス思考が子どもたちの成長につながる。
- 一番はもちろん尊い、しかし、一番よりも尊いビリだってある。
- 個性を伸ばすことに力を入れず、欠点を直すことに力を入れているのではないか。



- 授業は、授業からはじまっては授業にならない。
- 一人だけわかっているのもダメ、一人だけわからないのもダメ。
- ICT 活用は目的ではない。子どもたちの学びを深めるためのツールとして扱うべきである。
- 今さらですが、本時のめあてを具体的に示し、振り返りを次に活かされているだろうか。
- 人が環境をつくり、環境が人をつくる。教師は子どもたちの最大の学びの環境である。
- 授業改善は気づきから、気づきを導くことが最大の授業力向上支援となる。



- 生徒指導とは、生き方指導である。
- 問題が発生した場合、発生が予測されていたか・・・。平素からの取組みが大切である。
- 情報共有のもと、チームによる迅速かつ具体的な対応、関係機関との連携、そして対応の記録を残すことが重要である。
- どのような状況にあっても、学習の保障を考える。
- 取り繕うことなく、素直で謙虚であれ、ミスは認め、子どもを核とした改善策を提示し、時には毅然と対応すべし。
- 少年事件捜査を長く経験したサポートチーム警察OBに相談を！



- 特別支援教育は命の教育、教育の根幹である。
- 特性や愛着の課題は誰にでもある、行動には必ず意味や理由があり、言葉にならない思いを受け止めることが個に応じた教育である。

- 職場との良い関係を継続するためにも、療養中の教職員には療養制度や相談先、講座、リワークなど、活用できるサポート資源の情報を伝えることが大切です。



- 問題が深刻化してからではできることが限られます。「ちょっと気になるな」の段階で、SSWにぜひ相談を！SSWは子ども、教員、保護者を支えるのが務めです！

- 【必見】初対面の人と心の距離が近づく雑談のコツ！それは「木戸に立掛けし衣食住」
き：気候 ど：道楽趣味 に：ニュース た：旅 ち：知人（共通知人） か：家族
け：健康 し：仕事 衣：ファッション 食：グルメ 住：住まい
雑談やアドリブが苦手な先生は少なくありません。ほんの少しの準備で自然に話せます！

